

# 第14回 がんばれ西高!

## 山陰中央新報ヤングこだま欄に掲載!

2年生

松本公伸君、田中有以さん、伊藤奨英君、稲田裕介君

「心のこもった文章で感動しました」という感想を一般の方からいただきました。本当に、自分の言葉でそれぞれの気持ちが表現されていてとてもいい文章だと思います。

2011年(平成23年)12月11日(日曜日)

山陰中央新報



松江西高校

小・中・高校生から専門学校生、大学生まで、若い人たちの意見を集めるコーナー「ヤングこだま」(日曜日掲載)です。今回は松江西高校2年生の皆さんです。学校、学級単位の投稿を募っています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係・電話08552(32)33225までご連絡ください。

### 亡くなった人の分も頑張る

2年 松本 公伸  
今回の東日本大震災では、やりたいことがたくさんあっただろう人も多数亡くなられて、とても残念だっただろうと思います。それにけがをされた人たちが数えきれないほどいて、とても大変なことが起きていると思いました。

直れないと思いますが、東北地方の人たちは誰もが協力して、テレビで見ても笑顔で「頑張ります」と言っていて、とてもすごいと感動しました。だから、僕は何事にも感謝の気持ちを忘れず、亡くなった人の分もしっかりと頑張ろうと思えました。

東北地方の方々の気持ちなど何も分かっていませんでした。でも、次第に大地震の恐ろしさが分かってきて、日本中が復興に少しでも協力しようとしているのを見えてくるようになりました。

被災者の最初の涙は、失った家族や友達、お世話になった方などをお話していきたくて思いました。

だから、自分のできることをしっかりと探して、少しでも東北の人たちへ気持ちが伝わったらと思います。

### いろいろな支援活動の輪を

2年 稲田 裕介  
今回の東日本大震災で自分ができることは何だろうと考えてみたら、やはり細かな節電や募金活動などではないかと思いました。プロ野球がナイ

ターを減らして節電したように、自分も夜遅くまで起きておらずに早く寝ることや、できるだけの募金をしていこうと思えました。

この地震で自分自身でものがすくく伝わってききました。同じ日本という国で共に生きているのだから、助け合いは当然だと思うので、少しでも支

援していきたくて思いました。

だから、自分のできることをしっかりと探して、少しでも東北の人たちへ気持ちが伝わったらと思います。

### 東日本大震災

ものがすくく伝わってききました。同じ日本という国で共に生きているのだから、助け合いは当然だと思うので、少しでも支

援していきたくて思いました。



物事に関心をもち、自分の考え、意見を持つことの大切さを今後も持ち続けてください!